

科目名	配当年次・開講期	単位数	担当者
多職種連携演習	1年次・後期	2単位 (選択)	稲垣 範子 (担当形態：単独)
科目	養護に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等			

[授業概要・目的]

保健・医療・介護・福祉分野における多職種連携の重要性を理解し、患者・利用者・家族・コミュニティを中心とした課題に焦点を当てて共通の目標を設定し、課題解決および目標達成に向けて関わる人々と協働することができる多職種連携能力を身につける。

[到達目標]

(知識)

- ① 多職種連携に求められる協働的能力と保健・医療・介護・福祉分野の現行の制度について説明できる。
- ② 各専門職の役割や機能を把握し、職種間でどのように相互理解、連携協働が行われるかを説明できる。

(技能/行動)

- ③ 自らの臨床経験や研究テーマに関連した多職種連携にて解決を図るべき課題を設定し、フィールドワークを計画できる。
- ④ フィールドワーク施設において、多職種連携の実践現場でのケアや対話を通して、課題に関連する情報を収集し分析できる。
- ⑤ 収集した情報をもとに、連携の課題や問題点を明確にして分析し、共通の目標設定と対応策を発表することができる。

(態度)

- ⑥ 患者・利用者を中心としたケアの提供のため、対象者やその家族と円滑なコミュニケーションを図ることができる。
- ⑦ 多職種連携の実践現場において、積極的にケア参加や対話を行い、対象者や関係者との信頼関係を築くことができる。
- ⑧ 各職種の立場や視点を理解し、多職種チームとして協力し合う姿勢を持つことができる。

[授業方法]

学内での講義・演習において、これまでの臨床経験や興味のある研究テーマに関連した多職種連携にて解決を図るべき課題を設定し、フィールドワークを計画します。フィールド（課題に応じた病院・施設等）では、患者・利用者への直接ケアへの参加や関係者との対話を通して、問題点を明らかにして解決策を探ります。自らの実践における課題や研究テーマについて、多職種連携の視点を加えることで新たな発想を得てほしいと考えています。

[授業計画]

回数	テーマ	内容・方法等
第1回	イントロダクション	授業の概要説明、到達目標の共有、受講生の関心やフィールド選定のディスカッション
第2回	多職種連携に関する基礎知識	多職種連携コンピテンシー、保健医療介護福祉分野の現行システムと問題点
第3回	多職種連携にて解決を図るべき課題設定 (1)	臨床経験や興味のある研究テーマに関連した多職種連携にて解決すべき課題の設定
第4回	多職種連携にて解決を図るべき課題設定 (2)	多職種連携コンピテンシーのドメインに基づき設定した課題を分析
第5回	フィールドワーク計画 (1)	フィールドワーク計画の発表、討議、フィードバック
第6回	フィールドワーク計画 (2)	フィールドワーク計画の修正、フィールドワーク実施施設との調整
第7回	フィールドワーク (1)	現場の概要把握、現場の担当者とのミーティング、フィールドワーク計画の発表
第8回	フィールドワーク (2)	患者・利用者とのコミュニケーション、ケアへの参加
第9回	フィールドワーク (3)	患者・利用者のケアに関わる会議への参加、多職種とのコミュニケーション
第10回	フィールドワーク (4)	中間発表：課題に関する情報整理、課題の分析、共通の目標設定
第11回	フィールドワーク (5)	目標達成に向けた具体案に関して患者・利用者・多職種との討議
第12回	フィールドワーク (6)	目標達成、課題解決についての評価、ケアに関する提案
第13回	フィールドワーク (7)	患者・利用者、関係する多職種、現場担当者への学びのフィードバック
第14回	フィールドワークでの学びの共有と総括 (1)	最終発表会 (1)：各フィールドワークでの学びの発表
第15回	フィールドワークでの学びの共有と総括 (2)	最終発表会 (2)：授業全体の振り返り、学びの共有と総括
[事前・事後学習課題]		

第1回 事前課題：関心のあるテーマ、領域についてのレポート（1時間） 事後課題：フィールド候補の検討（1時間） 第2回 事後課題：多職種連携にて解決を図るべき課題の設定（2時間） 第3回 事後課題：発表資料を追加修正し、第5回にフィールドワーク計画書として提出する（2時間） 第4回 事後課題：発表資料を追加修正し、第5回にフィールドワーク計画書として提出する（2時間） 第5・6回 事前課題：フィールドワーク計画書の作成（2時間） 事後課題：計画書の追加修正（2時間） 第7～13回 事前課題：フィールドワーク計画書の追加修正（毎回1時間） 事後課題：フィールドワーク報告書の作成（毎回1時間） 第14・15回 事前課題：フィールドワークレポートの作成（2時間） 事後課題：レポートの追加修正（1時間）
「定期試験は実施しない」

〔評価方法（基準）〕

授業への参加態度（20%）、フィールドワーク計画書・報告書（40%）、最終発表（20%）、最終レポート（20%）

〔教材〕

教材の区分	書名	著者名	出版社名
教科書	なし		
参考書	実践 チーム医療論 実際と教育プログラム	水本清久他 編著	医歯薬出版株式会社
参考書	「チーム医療」とは何か 医療とケアに生かす社会学からのアプローチ	細田 満和子	日本看護協会出版会

科目名	配当年次・開講期	単位数	担当者
臨床看護倫理	1年次・前期	1単位 (選択)	鎗野 りか (担当形態：単独)
科目	養護に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等			

[授業概要・目的]

臨床・教育・研究のあらゆる場における倫理的問題について、看護の実際例を通して、看護における倫理の必要性と重要性を考察する。加えて、倫理的問題の分析を実践的に学び、看護師としての対応のあり方、アボドケーターとしての看護の役割と機能を考察する。

[到達目標]

- ① 臨床の現場での倫理的問題とは何か、その中心的存在である患者、家族そしてそこに関わる医療者としての倫理性を理解できる。
- ② 看護実践上の倫理的ジレンマを理解し、その調整プロセスについて考察できる。
- ③ 看護研究や看護管理上の倫理的課題について理解できる。
- ④ 医療現場における倫理観を醸成するための働きかけを探究できる。

[授業方法]

臨床倫理とは何かについて概観し、倫理原則、看護実践、看護管理、倫理的問題解決について学修する。また、倫理的課題を解決していくプロセスを通して調整を行うための必要な判断能力を養い、看護専門職としての役割や責務倫理調整について探究する。さらに、ディスカッションを通じて今日の看護における倫理的課題について模索する。

[授業計画]

回数	テーマ	内容・方法等
第1回	臨床倫理とは	臨床倫理とは何かについて臨床現場での考え方と概要
第2回	看護専門職としての倫理	専門職としての要件としての倫理、日本看護協会が示す看護者の倫理綱領について
第3回	看護実践と倫理	第1回2回を踏まえ、「看護実践と倫理的な活動とは」について考える
第4回	倫理的意思決定プロセス (1)	臨床での倫理事例(患者の意思決定)・ジレンマに関するディスカッションを通じ調整のプロセスについて
第5回	倫理的意思決定プロセス (2)	臨床での倫理事例(家族の意思決定)・ジレンマに関するディスカッションを通じ調整のプロセスについて
第6回	倫理的意思決定プロセス (3)	臨床での倫理事例(チームの意思決定)・ジレンマに関するディスカッションを通じ調整のプロセスについて
第7回	看護研究における倫理	看護研究における倫理的配慮とその課題について
第8回	看護管理における倫理	組織を管理していく上で組織風土や文化の礎となる健全な倫理的価値観の醸成について

[事前・事後学習課題]

講義にける共有した問題・課題により事後課題を検討する。事前・事後学習の総時間数はおよそ15時間程度とする。

「定期試験は実施しない」

[評価方法 (基準)]

授業への貢献、レポート等を総合的に評価し行う。

授業への参加度：10% 討議の参加度・達成度：40% 課題レポート：50%

[教材]

教材の区分	書名	著者名	出版社名
参考書	看護実践の倫理 第3版	サラ T. フライ著 (片田 範子他訳)	日本看護協会出版会
参考書	臨床倫理ベーシックレッスン	石垣 靖子、清水 哲郎	日本看護協会出版会
参考書	ケアの向こう側	ダニエル F. チャンプリス著 浅野祐子訳	日本看護協会出版会

科目名	配当年次・開講期	単位数	担当者
フィジカルアセスメント特論	1年次・前期	2単位 (選択)	佐久間 夕美子 (担当形態：単独)
科目	養護に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等			

【授業概要・目的】

臨床推論・臨床判断の考え方およびフィジカルアセスメントの概念、目的、方法、看護における意義と必要性を学修する。自身の経験や既知の知識と技術を活用し、身体診査の理解を深める。症状・所見からフィジカルイグザミネーションとアセスメントを系統的に実施し、看護の対象となる人の身体状況を判断するための能力を培う。また、看護における臨床判断能力を涵養するための教育方法について検討し、考察する。

【到達目標】

- ① 臨床推論・臨床判断の考え方、フィジカルアセスメントの概念、目的、方法、看護における意義と必要性を述べることができる。
- ② フィジカルアセスメントに必要な基礎的な知識と技術を再確認し、対象の身体状況の診査について説明できる。
- ③ 症状・所見から、対象に必要なフィジカルイグザミネーション、アセスメントを系統的に実施することができる。
- ④ 看護における臨床判断能力を育成するための教育方法を検討し、自己の考えを述べるができる。

【授業方法】

臨床推論および臨床判断、フィジカルアセスメントの基礎的理解が必要な事項について講義、演習を行い、それぞれの技術についてのプレゼンテーションとディスカッションから理解を深める。自身の経験や既習の知識・技術等を活用して、看護実践場面でのフィジカルアセスメントと、看護基礎教育における臨床判断能力を育成するための教育方法につなげられるよう学修する姿勢が求められる。

【授業計画】

回数	テーマ	内容・方法等
第1回	オリエンテーション	科目のオリエンテーション
第2回	臨床推論・臨床判断の考え方、フィジカルアセスメントの概念	臨床推論・臨床判断、フィジカルアセスメントに関する基礎的理解に関する講義と討議を行う
第3回	看護における臨床推論・臨床判断の意義と必要性	看護における臨床推論・臨床判断の位置づけ、フィジカルアセスメントの教育方法に関する講義と討議を行う
第4回	呼吸器系のフィジカルアセスメント	呼吸器系のフィジカルアセスメントに関する講義・演習を行う
第5回	呼吸器系のフィジカルアセスメント	呼吸器系のフィジカルアセスメントのプレゼンテーションをと討議を行う。
第6回	循環器系のフィジカルアセスメント	循環器系のフィジカルアセスメントに関する講義・演習を行う
第7回	循環器系のフィジカルアセスメント	循環器系のフィジカルアセスメントのプレゼンテーションと討議を行う。
第8回	消化器系のフィジカルアセスメント	消化器系のフィジカルアセスメントに関する講義・演習を行う
第9回	消化器系のフィジカルアセスメント	消化器系のフィジカルアセスメントのプレゼンテーションと討議を行う。
第10回	脳神経系・感覚器系のフィジカルアセスメント	脳神経系・感覚器系のフィジカルアセスメントに関する講義・演習を行う
第11回	脳神経系・感覚器系のフィジカルアセスメント	脳神経系・感覚器系のフィジカルアセスメントのプレゼンテーションと討議を行う。
第12回	筋骨格系のフィジカルアセスメント	筋骨格系のフィジカルアセスメントに関する講義・演習を行う
第13回	筋骨格系のフィジカルアセスメント	筋骨格系系のフィジカルアセスメントのプレゼンテーションと討議を行う。
第14回	健康問題をもつ対象のフィジカルアセスメント	健康問題をもつ対象の事例を検討し、フィジカルアセスメントと臨床判断についてプレゼンテーションと討議を行う。
第15回	健康問題をもつ対象のフィジカルアセスメント	フィジカルアセスメントの知識と技術、臨床判断能力を育成するための教育方法について討議を行う。
【事前・事後学習課題】		
【事前課題】		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の下調べ及び学生同士のディスカッションをしておくこと(1時間) ・ 事前課題について関連書籍、資料等を参考にレジュメを作成し、プレゼンテーションの準備を行うこと(2時間) 		
【事後課題】		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業内でのディスカッション、プレゼンテーションの際に得た助言等をふまえ、レポートを作成すること (2時間) 		

「定期試験は実施しない」

〔評価方法（基準）〕

プレゼンテーション(30%)、討議への参加度(20%)、課題レポート・レジュメ(50%)から総合的に評価する。

課題レポート・レジュメは、講義の進捗状況に合わせて適宜テーマを提示する。

〔教 材〕

教材の区分	書 名	著者名	出版社名
参考書	フィジカルアセスメントガイドブック - 目と手と耳でここまでわかる (第2版)	山内豊明	医学書院
参考書	フィジカルアセスメントの根拠がわかる! 機能障害からみた からだのメカニズム	清村 紀子、工藤 二郎 (編)	医学書院
参考書	臨床判断ティーチングメソッド	三浦友理子、奥裕美	医学書院
参考書	講義・演習に用いる資料は講義内で配布する		

科目名	配当年次・開講期	単位数	担当者
臨床推論特論	1年次・前期	2単位 (選択)	齊藤 三佳 (担当形態：単独)
科目	養護に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等			

【授業概要・目的】

質の高い看護・養護を実践する上で、担当する患者の診断・治療に至るプロセスを理解しておくことは極めて重要である。本特論では、すでに臨床経験を有する上級看護実践者および研究者を対象として、実際の臨床例についてカンファレンス形式で検討し、主訴、症状、臨床徴候、検査所見から治療に至る過程と病態について学修する。また関連する最新の知見や治療法について文献の検索を行い、看護師の視点からみた診療上の問題点や倫理的課題について討議する。

授業担当者の齊藤は、大学病院および地域の基幹教育病院で、30年以上小児科・新生児科を中心とする診療に従事するとともに、学生の臨床実習および臨床研修医や専門医を目指すレジデントの指導を行ってきた。本特論では、担当者が実際に診療に関与した症例および模擬症例を用いて、演習方式で授業を進める。疾患・病態についての理解を深めるとともに、優れたプレゼンテーションの方法や、病歴要約の作成法についても学修する。

【到達目標】

- ① 適切に症例のプレゼンテーションができる。
- ② 検査結果の意義について説明できる。
- ③ 治療方針について説明できる。
- ④ 病態生理について説明できる。
- ⑤ 担当した疾患に関する最新の知見や治療法について説明できる。
- ⑥ 症例要約（サマリー）を作成できる。

【授業方法】

担当者の専門分野である小児科・新生児科を中心に、各種合併症や手術、病理解剖など、さまざまな要素をもつ症例（既発表例で匿名化されたもの）のデータをパワーポイント形式で準備する。担当者が選択した症例についてプレゼンテーションを行い、症候、検査成績、鑑別診断や治療経過について説明し、各所見の意義や解釈についてメンバーで討議する。関係する文献検索を加え、該当症例の特徴や臨床的意義について考察し、病歴要約（サマリー）を作成する。状況により、Teams を用いたオンライン、リアルタイムでの討議を実施する。

【授業計画】

回数	テーマ	内容・方法等
第1回	オリエンテーション	授業のすすめ方、導入講義、担当症例の割り当て、症例提示の方法
第2回	症例1（感染症A） マイコプラズマ肺炎	症例提示とカンファレンス。臨床症候や検査成績の解釈、治療方針について検討する。
第3回	症例1（感染症A） マイコプラズマ肺炎	前回検討した症例をもとに、関連する最新の知見について総説や原著論文を紹介する。
第4回	症例2（感染症B） 発疹の出るウイルス疾患	症例提示とカンファレンス。臨床症候や検査成績の解釈、治療方針について検討する。
第5回	症例2（感染症B） 発疹の出るウイルス疾患	前回検討した症例をもとに、関連する最新の知見について総説や原著論文を紹介する。
第6回	症例3（内分泌疾患） I型糖尿病	症例提示とカンファレンス。臨床症候や検査成績の解釈、治療方針について検討する。
第7回	症例3（内分泌疾患） I型糖尿病	前回検討した症例をもとに、関連する最新の知見について総説や原著論文を紹介する。
第8回	症例4（新生児） 糖尿病母体児	症例提示とカンファレンス。臨床症候や検査成績の解釈、治療方針について検討する。
第9回	症例4（新生児） 糖尿病母体児	前回検討した症例をもとに、関連する最新の知見について総説や原著論文を紹介する。
第10回	小児科 Update	中間講義 感染症に関連したレクチャー
第11回	症例5（免疫・アレルギー） 川崎病	症例提示とカンファレンス。臨床症候や検査成績の解釈、治療方針について検討する。
第12回	症例5（免疫・アレルギー） 川崎病	前回検討した症例をもとに、関連する最新の知見について総説や原著論文を紹介する。
第13回	症例6（染色体疾患） ダウン症	症例提示とカンファレンス。臨床症候や検査成績の解釈、治療方針について検討する。
第14回	症例6（染色体疾患） ダウン症	前回検討した症例をもとに、関連する最新の知見について総説や原著論文を紹介する。
第15回	総括 病歴要約作成	担当症例について、病歴要約（サマリー）を作成する。

[事前・事後学習課題]

- | |
|---|
| <p>(1) 担当症例について、パワーポイント (PPT) の内容を把握し、検査項目の意義や解釈、治療法等について学習、理解したうえで、授業において症例提示 (プレゼンテーション) を行う。</p> <p>(2) 発表症例の現病歴、一般検査結果などが記載された PPT の PDF を Teams のファイルにアップロードし、事前学習に供する。</p> <p>(3) 担当者が発表する内容について、メンバー全員で質疑を行いながらカンファレンスを進める。
疑問点について、成書、総説、原著論文などの文献検索を行い、次回の授業で最新の知見を含めて報告する。</p> <p>(4) 担当症例について、定められた形式の症例要約 (サマリー) を作成し、添削をうける。</p> |
|---|

「定期試験は実施しない」

[評価方法 (基準)]

受講態度、担当症例のプレゼンテーション、ディスカッションの内容、レポートとして提出する症例要約の内容により、総合的に評価する。

[教 材]

教材の区分	書 名	著者名	出版社名
教科書	なし		
参考書	パワーポイントのデータや関連資料を、PDF 等で随時配布する。		

科目名	配当年次・開講期	単位数	担当者
薬物治療学特論	1年次・後期	2単位 (選択)	菊田 真穂、首藤 誠、 辻 敏和、長谷部 茂 (担当形態：オムニバス)
科目	養護に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等			

【授業概要・目的】

臨床現場で実施される薬物療法に関する知的基盤および実践的能力を身につける。すなわち、投与される医薬品に関する情報を収集し、そのエビデンスに基づいた薬物治療（投与量や投与法の選択、投薬後モニタリング、副作用の予防・早期発見等）を実践できる能力を養成する。加えて、患者に対する個別的な薬物治療や医療倫理について、看護師として必要な判断について学修する。さらに、臨床現場における医薬品の有効性・安全性の評価や各種疾患における薬物治療について、また乳幼児、妊婦・授乳婦、高齢者など注意が必要な患者に対する薬物治療について論ずる。

【到達目標】

- ① 医薬品の適正使用、個別医療、医療倫理、EBM、小児、妊婦・授乳婦、高齢者の薬物治療等について理解し、それぞれの問題点を指摘できる。
- ② 各種疾患の薬物治療を理解し、各種疾患で処方される医薬品の有効性、安全性および治療における問題点等を指摘できる。

【授業方法】

原則として、授業計画に基づき授業を展開する。授業では、テキスト中心の解説講義に加えて、毎回の授業で課題についての発表・討論を行う。さらに、実践に即した症例を用いた演習型授業も取り入れる。医師の処方意図や薬剤師の薬剤管理・薬物治療チェックの考え方を学修して、チーム医療への参画を目指す。

授業担当回数 菊田：4回、首藤：4回、辻：4回、長谷部：3回

【授業計画】

回数	テーマ	内容・方法等
第1回	薬物治療学 総論（1）	医薬品の適正使用などについて解説し、討論を行う。 (担当：菊田)
第2回	薬物治療学 総論（2）	高齢者の薬物治療について解説し、討論を行う。 (担当：菊田)
第3回	薬物治療学 総論（3）	EBM や個別医療などについて解説し、討論を行う。 (担当：首藤)
第4回	薬物治療学 総論（4）	チーム医療について解説し、討論を行う。 (担当：辻)
第5回	薬物治療学 総論（5）	感染症の薬物治療について解説し、討論を行う。 (担当：長谷部)
第6回	薬物治療 各論（1）	各種疾患の薬物治療について事前学習し、授業中に討論を行う。 小児の薬物治療 (担当：首藤)
第7回	薬物治療 各論（2）	各種疾患の薬物治療について事前学習し、授業中に討論を行う。 精神領域の病態 (担当：首藤)
第8回	薬物治療 各論（3）	各種疾患の薬物治療について事前学習し、授業中に討論を行う。 精神領域での薬物治療 (担当：首藤)
第9回	薬物治療 各論（4）	各種疾患の薬物治療について事前学習し、授業中に討論を行う。 抗がん剤調製時の注意点 (担当：菊田)
第10回	薬物治療 各論（5）	各種疾患の薬物治療について事前学習し、授業中に討論を行う。 抗がん剤投与時の副作用への対応 (担当：菊田)
第11回	薬物治療 各論（6）	各種疾患の薬物治療について事前学習し、授業中に討論を行う。 妊婦・授乳婦の薬物治療 (担当：辻)
第12回	薬物治療 各論（7）	各種疾患の薬物治療について事前学習し、授業中に討論を行う。 注射剤の配合変化 (担当：辻)
第13回	薬物治療 各論（8）	各種疾患の薬物治療について事前学習し、授業中に討論を行う。 注射薬の取り扱いについて (担当：辻)

第14回	薬物治療 各論 (9)	各種疾患の薬物治療について事前学習し、授業中に討論を行う。 HIVの病態について (担当：長谷部)
第15回	薬物治療 各論 (10)	各種疾患の薬物治療についてについて事前学習し、授業中に討論を行う。 HIVの薬物治療について (担当：長谷部)
【事前・事後学習課題】		
事前学修：事前に配布した症例・処方例について、有効性、副作用、問題点等を調べる。 事後学修：授業中のグループディスカッションのプロダクトを整理して提出する。事前・事後学習の総時間数はおよそ60時間程度とする。		
【定期試験は実施しない】		

【評価方法（基準）】

授業中の発表・質疑応答（50%）、レポート内容（50%）で評価する。

【教材】

教材の区分	書名	著者名	出版社名
教科書	「薬がみえる Vol. 1-4」	医療情報科学研究所	株式会社メディックメディア
参考書	なし		

科目名	配当年次・開講期	単位数	担当者
医療経済特論	1年次・前期	2単位 (選択)	田井 義人 (担当形態：単独)
科目	養護に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等			

[授業概要・目的]

- ・経済・経営管理の諸理論を理解し、保健・医療・福祉における経済・経営的思考を修得するとともに、政策構築を考察できる力を養う。
- ・政令指定都市の高医療機能病院に15年間勤務した経験から医療現場での課題に対する実践的演習を行う。
- ・SDG-s3「すべての人に健康と福祉を」該当

[到達目標]

「認定看護管理者セカンドレベル、サードレベルカリキュラム基準」に準拠し以下の視点からの考察を行う。

- ① 保健医療福祉と経済論の視点：医療経済の構造や医療システムについて理解を深め、医療福祉における経済的問題や日本における社会保障と医療経済の関わりからの視点からの考察。
- ② ヘルスケアサービスの経営管理・経済性の視点：看護職が提供する看護サービスを効果的かつ効率的な側面から検討するための経営管理の視点や市場性・適正配置などの経済原理の視点からの考察。看護業務に関連する周辺業務である人事・物品・情報・時間等の管理における経済性からの考察。
- ③ 看護経営の今後のあり方の視点：訪問看護ステーション・助産院の経営管理の視点からのマネジメントや医療や福祉分野等での看護師業務の多様な就業形態の考察。

[授業方法]

I・授業は講義、演習もしくは実技等のいずれかによりまたはこれらの併用により行う。授業は多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室だけでなくその他の教室以外の場所でも履修することができる。下記内容を実施する。

[講義方法]

原則として、授業計画に基づき授業を行う。授業に使用するテキストは「医療の経済学」「見える化」医療経済学入門」を使用し、授業計画に沿って事前に学生にレジメの作成を求める。レジメの報告と追加資料による議論を行う。議論の際に、質問と授業への感想や要望及び意見を聴取し、授業の内容と進め方に反映させる。医療に関わる実践例を用いたビデオ教材等を活用して学生が理解できるように工夫する。さらに、興味のある内容については、質問票を設け、次の授業で議論するなど学生の学修を助ける。

[授業計画]

回数	テーマ	内容・方法等
第1回	・オリエンテーション ・序章 日本の医療制度の枠組みと政策課題	・医療制度の目的、医療提供体制と医療保障制度、日本の医療供給体制、平均的な医療サービス市場のイメージ、日本の医療保障制度、公的医療保険から医療機関への医療費支払いの仕組み、私的財・価値財・公共財の特性、効率性と平等性のトレードオフ。
第2回	病院ランキングは役立つか —情報の非対称性—	1：広告規制、病院ランキング本 2：情報の非対称性、情報生産、シグナリング 3:情報公開、病院ランキングの有効性 4:日本の第三者評価と情報生産
第3回	医療サービスと自由競争	1:多くの規制がなぜ必要なのか 2:情報の非対称性、レモン市場、市場の失敗 3:規制の目的と効果 4:市場の失敗か政府の失敗か
第4回	患者はかかりつけ医を持つべきか —エージェント問題—	1:家庭医制度、高齢者担当医制度 2:エージェント問題、契約の失敗 3:受診決定のちがひ、GP契約の手法 4:家庭医制度の是非
第5回	病床規制はなぜ維持されたのか —供給者誘発需要仮説—	1:病床規制 2:供給者誘発需要仮説 3:供給者誘発需要は実際に存在するのか 4:競争促進と医療費抑制のジレンマ
第6回	社会的入院は解消できるか —サービスの代替補完関係—	1:社会的入院、介護保険制度 2:超過需要、割当、代替材 3:社会的入院の費用、介護保険の節減効果 4:補完財を代替財として利用
第7回	公的医療保険はなぜ必要か —需要の不確実性と逆選択—	1:公的医療保険への強制加入 2:保険の機能、リスク選択、プーリング均衡 3:プーリング均衡から分離均衡への移行 4:社会保険方式のメリットとデメリット
第8回	診療報酬改訂は伝家の宝刀か —保険償還の仕組みと経済的誘因—	1:医療機関の経営と公的医療保険制度 2:支払い方式の変更、独占的競争 3:公定価格の水準および支払い単位の変更 4:公定価格の水準と支払い単位の変更
第9回	混合診療解禁のメリット・デメリット —医療制度の効率性と公平性—	1:混合診療禁止のルール 2:医療資源の配分と公平性、モラルハート 2:医療資源の配分と公平性、モラルハート 3:民間保険の利用と健康格差 4:効率性と公平性のバランス
第10回	「医師不足」は定員増加で解決できるか —ニーズアプローチの限界—	1:医師不足、医療崩壊 2:2つのアプローチ（ニーズとシーズ） 3:2つのアプローチの比較 4:ニーズアプローチの限界
第11回	「終末期医療」は無駄なのか —日本人の死生観—	1:終末期をめぐる論争 2:煙草論争 3:日本で RED HERRING 仮説は支持されるか 4:各国で異なる死生観
第12回	視界セロを脱するか —DPC/PDPS今後の政策・運営方針への示唆—	1:「見える化」できないDPC 2:CMIは利用可能か 3:在院日数短縮と病床利用率のバランス 4:解消すべき2つの課題 5:ACGは日本になじむのか

第13回	“医療の見える化”の現状と課題	1:求められる“医療の質の向上と効率化” 2:P4Pの先行事例 3:草の根から努めた“病院可視化ネットワーク” 4:P4Pによる行動変容はあるのか 5:病院・医師は変えうるのか 6:技術革新の検証 7:質の向上と効率化の同時達成 8:P4Pの前にP4R
第14回	どこまで公的医療保険で面倒みるか	1:透明性が増した保険収載プロセス 2:懸案の未収載品の取扱 3:“デビルの川”と“死の谷” 4:基準が曖昧な“昇格”手続き 5:自由放任でいいのか
第15回	地域包括ケアは連携か“範囲の経済”か	1:アメリカのデフォルトにみる先行事例 2:リハビリにみる医療・介護の連携 3:大腿骨頸部骨折治療にみる実証研究 4:主たる知見 5:経営改善したいのか訪問看護ST・助産院 6:“口から食べたい”を支える歯科医師との連携
[事前・事後学習課題]		
事前に作成するレジメ及びレジメによる発表内容、議論や講義内で作成を求めるレポート、質問に対する回答の結果を基に、総合的に評価する。事前・事後学習の総時間数はおよそ60時間程度とする。		
[定期試験は実施しない]		

[評価方法(基準)]

ICTツールを活用しての参加や対面によるコミュニケーションから講義での回答内容50パーセント、レポート50パーセントで総合評価する。

[教材]

教材の区分	書名	著者名	出版社名
教科書	「医療の経済学 第2版」or「第3版」	河口 洋行著	日本評論社
教科書	“見える化”医療経済学入門	川渕 孝一	医歯薬出版株式会社
参考書	人にやさしい医療の経済学	森 宏一郎	信山社

科目名	配当年次・開講期	単位数	担当者
地域医療防災演習	1年次・通年	1単位 (選択)	池内 淳子、榊 愛、高田 洋介 (担当形態：オムニバス)
科目	養護に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等			

【授業概要・目的】

被災地において被災者の健康維持支援を行う看護師の役割について学ぶ。はじめに自然災害の発生原因について学習し、拠点施設の室内空間構成や被害事例について、また、都市における拠点施設の空間分布等について理解を深める。次に、阪神・淡路大震災や東日本大震災における事例を基に、災害看護および被災者・支援者のメンタルケアの重要性を理解する。避難所運営訓練等、地域の災害研修を体験することで、地域防災に寄与する看護師としての知識・技能を身につける。

- (1) 地震・津波など自然災害や拠点施設となる病院の被害事例について学ぶ。北河内医療圏の構成（人口など）について理解する。
- (2) 生活空間の寸法（椅子や机など）について、また、都市における公共建物の空間分布特性と暮らしの関係について学ぶ。
- (3) 阪神・淡路大震災や東日本大震災、また、その他の自然災害時における被災者の健康管理について学ぶ。
- (4) 避難所運営訓練や被災者の健康管理を目的とした研修を体験することで、地域医療に携わる医療従事者の役割を学ぶ。

【到達目標】

- ① 自然災害の発生原因について、拠点施設の室内空間構成や被害事例について説明できる。
- ② 都市における拠点施設の空間分布等について理解する。
- ③ 阪神・淡路大震災や東日本大震災における事例を基に、災害看護および被災者・支援者のメンタルケアについて説明できる。
- ④ 避難所運営訓練等、地域の災害研修を体験することで、地域防災に寄与する看護師としての知識・技能を身につける。

【授業方法】

第1回～第9回の講義では、講義と演習を組み合わせる授業を行う。講義は①オンデマンド型（あらかじめ準備した授業教材（動画やpdf資料）を視聴し、授業後に課題を提出する方式）と、②ライブ型（土曜午後の授業時間内に授業配信を行う。授業後の課題は①と同様）を組み合わせる。第10回～第14回では、避難所運営訓練や健康管理を目的とした災害研修等を体験し、医療従事者の役割を学ぶ。活動後は振り返りのためレポート作成を行う。第15回目は、総括として災害後の被災者の健康管理支援について、自分の活動をまとめ、意見を述べる。

【授業計画】

回数	テーマ	内容・方法等
第1回	自然災害を知る	地震・津波・洪水・土砂崩れ・台風・竜巻等自然災害について学ぶ 【担当：池内淳子】
第2回	病院被害と病院防災	拠点施設となる病院の建築的成り立ちと構造、被害事例について学ぶ 【担当：池内淳子】
第3回	室内空間の成り立ちと人間工学に基づく寸法	椅子や机・ベッドの高さや大きさ等の寸法について学ぶ 【担当：榊愛】
第4回	都市における拠点施設の空間分布を知るためのワーク	都市における駅や公共建物の配置を学び、空間分布特性を知る 【担当：榊愛】
第5回	拠点施設の空間分布と暮らし	都市の空間分布特性と人の暮らしの関係 【担当：榊愛】
第6回	阪神・淡路大震災における地域医療	阪神・淡路大震災時における被災者の健康管理 【担当：高田 洋介】
第7回	東日本大震災における地域医療	東日本大震災時における被災者の健康管理 【担当：高田 洋介】
第8回	その他の自然災害における地域医療	その他の自然災害における被災者の健康管理 【担当：高田 洋介】
第9回	地域の被災状況と対策を知る	地域の被災状況を理解し、対策（自助・共助・公助）について学ぶ 【担当：池内淳子】
第10回	地域の避難所運営訓練と被災者の健康管理を目的とした研修1	避難所運営訓練の体験（避難所で何が起ころのか） 【担当：池内淳子】
第11回	地域の避難所運営訓練と被災者の健康管理を目的とした研修2	避難所運営訓練を通じて医療者の社会的役割を学ぶ 【担当：池内淳子】
第12回	地域の避難所運営訓練と被災者の健康管理を目的とした研修3	被災者の健康管理を目的とした災害研修の体験（避難所アセスメント） 【担当：池内淳子】
第13回	地域の避難所運営訓練と被災者の健康管理を目的とした研修4	被災者の健康管理に着目した医療・公衆衛生・福祉のマネジメントを学ぶ 【担当：池内淳子】

第14回	地域の避難所運営訓練と被災者の健康管理を目的とした研修5	被災者の健康管理を目的とした災害研修を通じて災害弱者の支援を学ぶ 【担当：池内淳子】
第15回	総括	災害後の被災者の健康管理支援—地域復興へ— 【担当：池内淳子】
[事前・事後学習課題]		
<p>【事前学習】 1～9回目：これまでの日本における自然災害に対し、災害医療・健康福祉・被災者ケアに関して興味のある資料・書籍等を読み込む。事前配布された資料を読み込み、講義中の質問や議論等の準備を行う。 10～14回目：避難所運営訓練等の資料を読み解く 15回目：これまでの講義内容を踏まえ、災害後の被災者の健康管理支援に関してプレゼン資料をまとめる。</p> <p>【事後学習】 1～9回目：講義内容を復習し、次回の講義での質問や議論等の準備を行う。 講義内容と自分の専門分野との関連について、10～14回目の地域活動での学び、および15回目のプレゼンとしてまとめられるように整理する。 10～14回目：災害研修体験後、得た知見をメモとして電子データ等にまとめておく。 15回目：プレゼンを通じて得た意見、また、他受講生の意見を踏まえ、自分の専門分野の学びに活用できるよう、知見をまとめる。 事前・事後学習の総時間数はおよそ15時間程度とする。</p>		
「定期試験は実施しない」		

【評価方法（基準）】

第1回～第9回の講義中の質問に対する回答やレポート等を30%で評価する。また、災害研修体験時における積極性および体験後のレポートを50%で評価する。さらに、15回目のプレゼンテーションを20%で評価する。

【教材】

教材の区分	書名	著者名	出版社名
教科書	なし		
参考書	「災害に強い病院であるために」	福田幾夫・池内淳子・鵜飼卓	(株)医薬ジャーナル社

科目名	配当年次・開講期	単位数	担当者
看護人間工学特論	1年次・後期	2単位 (選択)	奥野 竜平、西 恵理 (担当形態：オムニバス)
科目	養護に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等			

[授業概要・目的]

人間工学は、人間が快適に効率的に、かつ安全に「もの」を使用できるように、あるいは「労働」ができるように、機器や製品、施設、環境などを人間の心理、生理、身体の特徴に適合させる技術または方法論のための学問である。製品にとっては安全に使いやすさという付加価値を与えるため、また人間にとっては健康で生き生きと働けるという付加価値を与えるための追求がなされている。本講義では、プロダクトデザイン、インテリア設計、作業設計などに用いられる人間工学的的方法について、基礎と応用、並びに国内外の研究開発動向などを学ぶ。

SDGs-3,12

[到達目標]

- ① 人間工学、デザインと人間要素などについて、人間の生体計測方法、並びに人間の諸特性が、論理的に述べられる。
- ② 生活器具や医療福祉機器などのプロダクトデザインにおける人間工学的設計手法が論理的に述べられる。
- ③ 現場における人間工学的作業設計手法が論理的に述べられる。

[授業方法]

パワーポイントおよび配布資料を用いた講義とディスカッションを組み合わせる。毎回、課題を課すとともに、毎回の授業後に演習課題を課す。

[授業計画]

回数	テーマ	内容・方法等
第1回	人間工学の基礎	人間工学の定義、看護・介護における人間工学の役割 (担当：奥野)
第2回	人間の身体的特性	身長、体重、体型、肢体寸法、データベース、デジタルヒューマンモデル (担当：奥野)
第3回	人間の生理・心理特性	血流特性、疲労特性、反応時間、認知特性、記憶特性 (担当：奥野)
第4回	人間工学の方法論	生体計測の概要、パーセントイル、ユニバーサルデザイン、ヒューマンインタフェース (担当：西)
第5回	看護人間工学と看護師	看護・介護業務と人間工学、作業動作、ME機器・電子カルテの扱い、薬剤の扱い (担当：西)
第6回	看護人間工学と患者	入院患者の生活、患者の移動・移乗、快適性、安楽 (担当：西)
第7回	介護・福祉機器	車いす、介護ベッド、白杖、拡大鏡、補聴器、義手、義足 (担当：西)
第8回	ユーザビリティ評価	ヒューマンインタフェース、医療機器、介護機器、福祉機器 (担当：西)
第9回	生体計測1	身体寸法測定、モーションキャプチャ、ECG、HRV、EMG、EOG、EEG、GSR (担当：西)
第10回	生体計測2	精神負担計測、疲労計測、CFF、NASA-TLX (担当：西)
第11回	ボディメカニクス1	力学、力、モーメント、重力、人体モデル、腰痛 (担当：奥野)
第12回	ボディメカニクス2	看護・介護の姿勢・動作解析、看護・介護の力学的負担、負担の軽減 (担当：奥野)
第13回	ヒューマンエラー1	ヒューマンエラーの基礎、ヒューマンエラーの事例、ヒューマンエラーの分類 (担当：奥野)
第14回	ヒューマンエラー2	ヒューマンエラーの対策、フルプルーフ、フェイルセーフ、ヒヤリ・ハット (担当：奥野)
第15回	看護と人間工学まとめ	看護・介護業務の人間工学的見方、人間工学的手法、人間工学的改善 (担当：奥野)
[事前・事後学習課題]		
授業テーマに関する資料を配布するので事前に目を通し予習を行うこと。また、授業で扱ったテーマに関して演習課題に取り組み提出すること。		
「定期試験は実施しない」		

[評価方法（基準）]

毎回の授業後にて出される演習課題の提出 (100%)にて評価する。

[教 材]

教材の区分	書 名	著者名	出版社名
参考書	「品質管理のための統計学」	川野常夫	技術評論社

科目名	配当年次・開講期	単位数	担当者
看護教育特論	1年次・前期	2単位 (選択)	池田 友美 (担当形態：単独)
科目	養護に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等			

【授業概要・目的】

看護教育の課題と解決方法を理解し、看護教育の教授活動を展開するために必要な基本的知識を修得する。

【到達目標】

- ① 看護教育に深く関連する教育学について理解し、看護教育についての自己の考えを述べることができる。
- ② 看護教育課程の編成や授業設計、教育方法、評価方法について理解する。

【授業方法】

授業では、看護教育に関連する基礎的理解が必要な事項について、適宜研究論文や書籍を紹介し予習を促す。それぞれのテーマに関連する文献を概説した後、学生間でプレゼンテーションと討議を行い、理解を深める。看護教員や看護職者として教育的関わりの基礎となる知識を獲得し、看護教育のあり方や課題、その解決方法について自己の考えを明確にし、検討する。

【授業計画】

回数	テーマ	内容・方法等
第1回	オリエンテーションおよび教育観について	授業の進め方および教育観について概説する
第2回	教育の本質と意義	教育の本質と意義について、プレゼンテーションとディスカッションを行う。
第3回	学習の原理	学習の原理について、プレゼンテーションとディスカッションを行う。
第4回	学習意欲の原理	学習意欲の原理について、プレゼンテーションとディスカッションを行う。
第5回	学生の発達の理論	学生の発達の理論について、プレゼンテーションとディスカッションを行う。
第6回	教員の職業上の特徴	教員の職業上の特徴について、プレゼンテーションとディスカッションを行う。
第7回	教育観の形成と類型	教育観の形成と類型について、プレゼンテーションとディスカッションを行う。
第8回	教育における倫理	教育における倫理について、プレゼンテーションとディスカッションを行う。
第9回	教育の制度	教育の制度について、プレゼンテーションとディスカッションを行う。
第10回	カリキュラム	カリキュラムについて、プレゼンテーションとディスカッションを行う。
第11回	授業設計の意義と方法	授業設計の意義と方法について、プレゼンテーションとディスカッションを行う。
第12回	授業の学習目標を設定する	授業の学習目標を設定について、プレゼンテーションとディスカッションを行う。
第13回	教育評価の基本と方法	教育評価の基本と方法について、プレゼンテーションとディスカッションを行う。
第14回	評価基準を可視化する	評価基準を可視化することについて、プレゼンテーションとディスカッションを行う。
第15回	授業改善の方法	授業改善の方法について、プレゼンテーションとディスカッションを行う。
【事前・事後学習課題】		
【事前課題】		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の下調べ及び学生同士のディスカッションをしておくこと(1時間) ・ 事前課題について関連書籍、研究論文を参考にレジュメを作成し、プレゼンテーションの準備を行うこと(1時間) 		
【事後課題】		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業内でのディスカッション、プレゼンテーションの際に得た助言等をふまえ、レポートを作成すること (1時間) 		
「定期試験は実施しない」		

【評価方法（基準）】

学生間の討議状況と、レポートの内容から評価する。
レポートは、授業の進行に合わせて適宜テーマを提示する。
授業での討議状況：30%
プレゼンテーション：40%
レポート：30%

【教 材】

教材の区分	書 名	著者名	出版社名
教科書	教育と学習の原理	中井俊樹, 森千鶴 (編)	医学書院
教科書	授業方法の基礎	中井俊樹, 小林忠資 (編)	医学書院
参考書	看護教育学 (第6版)	杉森みど里, 舟島なをみ	医学書院

科目名	配当年次・開講期	単位数	担当者
疫学・保健統計学特論	1年次・前期	2単位 (選択)	小堀 栄子 (担当形態：単独)
科目	養護に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等			

【授業概要・目的】

保健医療分野において量的研究を行うために必要な考え方と方法論を学ぶ。講義では、集団における健康/疾病の分布とその関連要因を明らかにするための疫学について、また因果関係の有無を判断するために用いられる統計学について、それぞれ保健医療分野で用いられる事例を用いながら基本的な考え方について講義する。理解を深めるために演習問題も行う。

【到達目標】

- ① 説明変数と結果変数を用いた考え方および因果関係と関連の違いを理解し説明できるようになる。
- ② 基本的な研究デザインの利点と限界および誤差とバイアスへの対応を理解し説明できるようになる。
- ③ エビデンスレベルおよび誤差の考え方を踏まえて研究論文を評価できるようになる。
- ④ 統計の推定と検定の基本を理解し説明できるようになる。
- ⑤ 基本的な統計検定を正しく使えるようになる。

【授業方法】

講義と演習を行う。

【授業計画】

回数	テーマ	内容・方法等
第1回	疫学の歴史と基本および指標	因果推論と疫学指標
第2回	研究デザイン (1)	コホート研究
第3回	研究デザイン (2)	介入研究
第4回	研究デザイン (3)	症例対照研究
第5回	研究デザイン (4)	横断研究、生態学的研究、症例報告/症例集積
第6回	誤差 (1)	偶然誤差と系統誤差 (選択バイアスと情報バイアス)
第7回	誤差 (2)	系統誤差 (交絡)
第8回	データの種類と度数分布	比例・間隔・順序・名義尺度、度数分布
第9回	正規分布と標準化	正規分布、平均値、標準偏差、Z値
第10回	推定	平均値の推定
第11回	パラメトリック検定	Z検定とt検定
第12回	ノンパラメトリック検定	Z検定と χ^2 乗検定
第13回	相関と回帰	相関係数、散布図、回帰式
第14回	データ分析演習 (1)	データクリーニングと記述統計
第15回	データ分析演習 (2)	分析統計
【事前・事後学習課題】		
事前課題：各回のテーマに関して各自で調べ、授業で明らかにしたい疑問点をまとめる。 事後課題：各回で学習した内容を文章にまとめる。		
「定期試験は実施しない」		

【評価方法 (基準)】

事前・事後学習の状況や授業中の発言、および授業を通して学んだ問題理解や提言をまとめたレポートで評価する。

【教材】

教材の区分	書名	著者名	出版社名
教科書	はじめて学ぶやさしい疫学改訂第4版	日本疫学会監修	南江堂
教科書	基礎医学統計学改訂第7版	加納克己/高橋秀人	南江堂

科目名	配当年次・開講期	単位数	担当者
国際保健学特論	1年次・後期	1単位 (選択)	小堀栄子 村瀬由貴 (担当形態：複数)
科目	養護に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等			

【授業概要・目的】

グローバル化が進み、日本の少子・高齢化や労働力不足が深刻化する今日、日本でも国際移民が増えており、多様化はますます進んでいる。そうした中、移民の日本社会における生活や健康は、当事者である移民にとってだけでなく、移民受入のホスト国である日本にとっても重要なテーマである。授業では、日本の生活者としての移民の健康について取り上げるとともに、看護師が外国人患者に対処する際の課題と対応について取り上げる。

【到達目標】

- ① 日本の生活者としての国際移民の健康についてその概要を理解し、今後の課題および対処法について説明できる。
- ② 外国人患者の看護をする際への課題を理解し、対応について説明できる。
- ③ 講義中のディスカッションを通して国際移民の健康支援や看護についての考察を深めることができる。

【授業方法】

講義と討論を通して、移民の健康に関する課題と解決方法についての理解を深める。当事者の声にも耳を傾け、移民の健康と看護師の外国人患者への対処について、理解を深める。

【授業計画】

回数	テーマ	内容・方法等
第1回	国際移民の健康の概要	国際移民の現状と健康に関する基礎的事項を講義し、質疑応答を行う。
第2回	看護師と移民患者の概要	患者としての移民の概要について講義し、質疑応答を行う。
第3回	国際移民の生活と健康の実際	日本での生活と健康についての国際移民当事者による講義
第4回		移民当事者による講義内容を踏まえた質疑応答およびディスカッション
第5回	外国人患者への看護の実際	外国人患者への看護についての看護師による講義
第6回		看護師当事者による講義内容を踏まえた質疑応答およびディスカッション
第7回	まとめの発表と討論	日本の生活者としての移民の健康について
第8回		看護師が外国人患者の看護をする際の課題と対応について
【事前・事後学習課題】		
事前課題：各回のテーマに関して各自で調べ、授業で明らかにしたい疑問点をまとめる。 事後課題：各回で学習した内容を文章にまとめる。		
「定期試験は実施しない」		

【評価方法（基準）】

事前・事後学習の状況や授業中の発言、および授業を通して学んだ問題理解や提言をまとめたレポートで評価する。

【教材】

教材の区分	書名	著者名	出版社名
教科書	なし		
参考書	よくわかる国際移民 グローバル化の人的側面	ブライアン・キリー	明石書店
参考書	図表でみる移民統合	OECD	明石書店

科目名	配当年次・開講期	単位数	担当者
基盤実践看護学特論	1年次・前期	2単位 (選択)	佐久間夕美子、小堀栄子、 山居輝美、神谷美紀子 (担当形態：オムニバス)
科目	養護に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等			

【授業概要・目的】

看護の基盤となる概念及び理論に関わる知識と構造を把握し、看護実践を支える人間理解及び看護技術、教育、マネジメントについて俯瞰的に学修する。質の高い看護実践の基盤となる教育、看護組織や安全管理、看護倫理、社会的に脆弱な人々の健康問題など、看護の対象となる人々の多様性・複雑性に対応した看護のあり方について探究する。

【到達目標】

- ① 看護理論に関する知識体系の構造と看護実践、教育、研究への活用について説明することができる。
- ② 看護技術の質を高め、効果的に教育する方法について説明することができる。
- ③ 看護管理の理論を活用し、看護の質及び安全における課題を説明することができる。
- ④ 看護倫理の基本的概念について述べ、臨床における倫理的問題について分析し、説明することができる。
- ⑤ 国際移民の健康に関する概要を理解し、日本の移民の健康について現状を説明することができる。

【授業方法】

授業は講義・演習のほか、主にプレゼンテーションと討議によるゼミ形式で行う。本講義は看護のあり方を網羅的に学修し、看護実践や教育・研究に幅広く活用するための基盤となる内容であり、学生の経験と既習の知識も取り入れながらその理解の深まりを支援する。

【授業計画】

回数	テーマ	内容・方法等
第1回	看護の基盤となる概念と構造	オリエンテーション/ 看護の基盤となる概念の理論の構造に関する講義を行う。 (担当：佐久間)
第2回	主要な看護理論	主要な看護理論に関する講義と討議を行う。 (担当：佐久間)
第3回	看護理論と看護実践 (1)	大理論に関する講義とプレゼンテーション、討議を行う。 (担当：佐久間)
第4回	看護理論と看護実践 (2)	中範囲理論に関する講義とプレゼンテーション、討議を行う。 (担当：佐久間)
第5回	実践科学としての看護	理論、研究、実践の関係性と活用について講義と討議を行う。 (担当：佐久間)
第6回	看護技術と教育 (1)	看護技術の科学的根拠に基づく実践について講義とプレゼンテーション、討議を行う。 (担当：山居)
第7回	看護技術と教育 (2)	看護師育成のための教育的な手法について講義とプレゼンテーション、討議を行う。 (担当：山居)
第8回	看護管理	看護組織管理についての講義とプレゼンテーション、討議を行う。 (担当：神谷)
第9回	看護の質と安全	看護サービスの質保証と安全管理についての講義とプレゼンテーション、討議を行う。 (担当：神谷)
第10回	看護倫理	看護倫理の基本的な概念と知識に関する講義と討議を行う。 (担当：佐久間)
第11回	看護実践における倫理的課題	看護実践における倫理的問題に関するプレゼンテーション、討議を行う。 (担当：佐久間)
第12回	国際移民の健康に関する概要	国際移民の健康に関する概要や概念・理論について講義と討議を行う。 (担当：小堀)
第13回	日本の移民の健康の実際	日本の移民の健康に関する現状について講義と討議を行う。 (担当：小堀)
第14回	まとめ (1)	看護の基盤となる概念及び理論、教育、安全管理、多様な健康課題をもつ人々への看護実践についてプレゼンテーションと討議を行う。(担当：佐久間)
第15回	まとめ (2)	看護の基盤を成す諸要素と多様なニーズをもつ対象への看護実践を概観し、看護の対象となる人々の多様性・複雑性に対応した看護のあり方について考察する。(担当：佐久間)
【事前・事後学習課題】		
【事前課題】		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の下調べ及び学生同士のディスカッションをしておくこと(1時間) ・ 事前課題について関連書籍、資料等を参考にレジユメを作成し、プレゼンテーションの準備を行うこと(2時間) 		
【事後課題】		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業内でのディスカッション、プレゼンテーションの際に得た助言等をふまえ、レポートを作成すること(2時間) 		
「定期試験は実施しない」		

〔評価方法（基準）〕

プレゼンテーション(30%)、討議への参加度(20%)、課題レポート・レジュメ(50%)から総合的に評価する。
課題レポート・レジュメは、授業の進捗状況に合わせて適宜テーマを提示する。

〔教材〕

教材の区分	書名	著者名	出版社名
教科書	なし		
参考書	看護理論家の業績と理論評価	筒井真優美	医学書院
参考書	臨床倫理の考え方と実践: 医療・ケアチームのための事例検討法	清水 哲郎他(編)	東京大学出版会
参考書	図表でみる移民統合	OECD	明石書店
—	講義・演習に用いる資料は講義内で配布する		

科目名	配当年次・開講期	単位数	担当者
基盤実践看護学演習	1年次・後期	2単位 (選択)	佐久間夕美子、小堀栄子、 山居輝美、神谷美紀子 (担当形態：複数)
科目	養護に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等			

【授業概要・目的】

幅広く保健・医療・福祉・教育の視点から、多種多様な背景をもつ対象の健康課題やリスク要因、健康の保持増進・疾病予防及び健康回復に向けた看護実践、リスクマネジメント、人材育成など、学生が関心をよせる現象を中心に、既習の理論や経験も活かして文献検討と討議を行う。さらに、関心をよせるテーマに基づき、フィールドワークまたは教育活動等の計画を立案、実践し、リフレクションを用いて深く思索しながら研究疑問を明確にする。

【到達目標】

- ① 保健・医療・福祉・教育分野において、自身が関心をよせる研究疑問についてプレゼンテーションできる。
- ② 関心をよせるテーマに基づき、フィールドワーク・教育活動等の計画を立案することができる。
- ③ 文献検討およびフィールドワーク・教育活動等を実践した成果を基に研究疑問を明確にできる。
- ④ 研究疑問から研究課題へと焦点化し、今後の研究計画の方向性について述べることができる。

【授業方法】

本講義は学生が関心を寄せる現象を重視し、学生が主体的にテーマを選択して文献検討、フィールドワークまたは教育活動等をシラバスの計画に沿って行う。フィールドワーク・教育活動は学生が関心をもつ分野について計画立案し、それぞれの協力機関あるいは学内にて実施する。第1回、第14回、第15回は複数教員での授業、第3回～第13回は指導教員によるクラスごとに授業を行う。

【授業計画】

回数	テーマ	内容・方法等
第1回	オリエンテーション	本授業のオリエンテーションを行い、自らの関心領域、研究疑問についてプレゼンテーションを行う。
第2回	研究疑問についての文献検討	関心をよせる現象や研究疑問について文献検討を行い、研究疑問を焦点化する。
第3回	研究疑問についての文献検討	関心をよせる現象や研究疑問について文献検討を行い、研究疑問を焦点化する。
第4回	フィールドワークの計画	関心をよせる現象や研究疑問に基づくフィールドワークの計画を立案する。
第5回	フィールドワークの計画	関心をよせる現象や研究疑問に基づくフィールドワークの計画を立案する。
第6回	フィールドワークの実施	計画したフィールドワークまたは教育活動を実施する。
第7回	フィールドワークの実施	計画したフィールドワークまたは教育活動を実施する。
第8回	フィールドワークの実施	計画したフィールドワークまたは教育活動を実施する。
第9回	フィールドワークの実施	計画したフィールドワークまたは教育活動を実施する。
第10回	フィールドワークの実施	計画したフィールドワークまたは研究活動の実施を通して、興味・関心のあるテーマを掘り下げる。
第11回	フィールドワークの実施	計画したフィールドワークまたは研究活動の実施を通して、興味・関心のあるテーマを考察する。
第12回	フィールドワークの検討	フィールドワークまたは教育活動の成果を検討し、興味・関心のあるテーマから研究疑問を焦点化する。
第13回	フィールドワークの検討	フィールドワークまたは研究活動の成果を検討し、研究疑問を焦点化し、研究課題として考察する。
第14回	研究課題の検討 (1)	文献検討やフィールドワーク、または教育活動を実施した成果および自らの見解を発表し、研究課題について明確化する。
第15回	研究課題の検討 (2)	文献検討やフィールドワーク、または教育活動を実施した成果および自らの見解を発表し、研究課題について明確化する。
【事前・事後学習課題】		
事前・事後学習の総時間数はおよそ60時間程度とする学習効果を高めるために、各自事前に具体的なテーマ、視点を持ち、事前に文献、資料を学習しておくこと。また、授業中に討議した内容について、事後に整理し、課題を明らかにしておくこと。事前・事後学習の総時間数はおよそ60時間程度とする。		
【定期試験は実施しない】		

[評価方法 (基準)]

参加態度、プレゼンテーション、討議内容、レポートなどを総合して評価する。

[教 材]

教材の区分	書 名	著者名	出版社名
教科書	授業で適宜提示する。		
参考書	授業で適宜提示する。		

科目名	配当年次・開講期	単位数	担当者
基盤実践看護学援助特論	2年次・前期	2単位 (選択)	佐久間夕美子、山居輝美、神谷美紀子 (担当形態：オムニバス)
科目	養護に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等			

【授業概要・目的】

様々な看護実践の基盤となる援助技術の特性とその意義、教育課程および教授方法のほか、援助技術や対人援助における科学的根拠の検証を目指した研究アプローチとして、質的研究・量的研究と活用事例を検討する。また、看護管理および看護実践におけるリスクマネジメントに関する理論や課題、研究アプローチを理解し、批判的に分析を行う能力を培う。さらに、看護実践や教育を取り巻く諸問題の背景と現状に関する研究の動向および課題、エビデンスに基づく援助技術と検証・開発の方法、技術教育の具体的方法について探求する

【到達目標】

- ① 看護実践の構造における援助技術および対人援助の特性と位置づけ、意義について説明できる。
- ② 援助技術や対人援助における研究アプローチについて量的研究・質的研究の具体的方法を理解し、説明することができる。
- ③ 看護管理およびリスクマネジメントに関する研究アプローチについて量的研究・質的研究の具体的方法を理解し、説明することができる。
- ④ 看護基礎教育および臨床における教育に関する質的研究と量的研究、事例について比較検討し、教育のあり方について考察することができる。
- ⑤ 援助技術、看護教育、マネジメントに関する看護研究を概観し、現状と課題、今後の展望について述べるができる。

【授業方法】

授業は主にプレゼンテーションと討議によるゼミ形式で行う。各テーマに沿って、学生が主体的に選択した文献をもとにプレゼンテーションを行い、討議を行う。選択した文献について研究的な視点から批判的に吟味し、解釈・整理することで、看護実践の科学的根拠を検証・開発するための看護研究のアプローチ方法について理解を深める。

【授業計画】

回数	テーマ	内容・方法等
第1回	看護実践における援助技術と対人援助・教育のあり方	オリエンテーション/看護実践における援助技術および対人援助、教育の特性と位置づけ、科学的根拠に基づく看護の重要性と課題について講義と討議を行う。(担当：佐久間)
第2回	看護実践と研究	看護実践および教育に関する研究アプローチについて、量的研究・質的研究の具体的方法と特徴、活用事例について講義と討議を行う。 (担当：佐久間)
第3回	援助技術と研究アプローチ(1)	対人援助技術・コミュニケーション技法に関する研究アプローチと活用事例について文献検討を行う。(担当：山居)
第4回	援助技術と研究アプローチ(2)	対人援助技術・コミュニケーション技法に関する文献検討の結果をふまえ、看護実践における現状と課題について考察する。(担当：山居)
第5回	援助技術と研究アプローチ(3)	療養生活の援助技術に関する研究アプローチと活用事例について文献検討を行う。 (担当：神谷)
第6回	援助技術と研究アプローチ(4)	療養生活の援助に関する文献検討の結果をふまえ、看護実践における現状と課題について考察する。(担当：神谷)
第7回	援助技術と研究アプローチ(5)	診療の補助技術に関する研究アプローチと活用事例について文献検討を行う。 (担当：山居)
第8回	援助技術と研究アプローチ(6)	診療の補助技術に関する文献検討の結果をふまえ、看護実践における現状と課題について考察し、討議する。(担当：山居)
第9回	看護実践と看護管理(1)	看護管理および看護実践におけるリスクマネジメントに関する研究アプローチと活用事例について文献検討を行う。(担当：神谷)
第10回	看護実践と看護管理(2)	看護管理および看護実践におけるリスクマネジメントに関する文献検討の結果をふまえ、看護実践における現状と課題について考察する。(担当：神谷)
第11回	教育と看護実践(1)	看護基礎教育や現任教育等、看護実践に関わる様々な教育方法と現状、教育のあり方、研究アプローチについて講義と討議を行う。(担当：佐久間)
第12回	教育と看護実践(2)	看護教育に関する研究アプローチと活用事例について文献検討を行う。(担当：佐久間)
第13回	教育と看護実践(3)	看護教育に関する文献検討の結果をふまえ、質的研究と量的研究の事例について比較検討する。さらに、看護研究の具体的な進め方と課題について考察する(担当：佐久間)
第14回	まとめ(1)	看護実践の基盤となる援助技術、教育、マネジメント等に関する研究の動向及び課題について検討する。(担当：佐久間)
第15回	まとめ(2)	看護実践の基盤となる援助技術および教育、マネジメントのあり方、看護研究のアプローチについて考察し、プレゼンテーションと討議を行う。(担当：佐久間)
【事前・事後学習課題】		

【事前課題】

- ・ 授業の下調べ及び学生同士のディスカッションをしておくこと(1時間)
- ・ 事前課題について関連書籍、資料等を参考にレジユメを作成し、プレゼンテーションの準備を行うこと(2時間)

【事後課題】

- ・ 授業内でのディスカッション、プレゼンテーションの際に得た助言等をふまえ、レポートを作成すること (2時間)

「定期試験は実施しない」

【評価方法（基準）】

プレゼンテーション(30%)、討議への参加度(10%)、課題レポート・レジユメ(60%)から総合的に評価する。

【教 材】

教材の区分	書 名	著者名	出版社名
教科書	なし		
参考書	授業内容に応じて料配布または文献を紹介する		